

## 南小倉バプテスト教会信仰告白

## 前文

南小倉バプテスト教会は1961年に伝道を開始し、1965年に教会組織をして今日まで歩んできました。教会組織50年を前に、わたしたちは当時のままの信仰告白の見直しの必要を感じるようになりました。わかりやすく、具体的な、今日のわたしたち自身の信仰告白がほしい。わたしたち自身を含め、現代のこの世界を生きるすべての者たち、とりわけ苦しみや痛みを負わされた者たちにとっての慰め励まし、希望につながる信仰告白をつくろう。それがわたしたちの願いになりました。

2011年から翌年にかけて、わたしたちはこの教会の歴史の調査を行いました。(※1) その中で、教会創立当時から、この教会の信仰告白の共有がしっかりと図られてこなかった、ということがわかりました。(※2) 南小倉バプテスト教会の歩みは紆余曲折に満ち、教会は何度も分裂し、存続の危機に立たされてきましたが、その一因はここにあると思われました。

わたしたちは、もっと信仰を共有すべきでした。わたしたちは、信仰と、それに基づく交わりから離れていたのです。愛や隣人性を共有できず、キリストの身体形成を共に目指せず、ばらばらになってしまっていたのです。わたしたちは今、自らのこの罪を告白します。

それでもなお教会は今日まで歩みを続けることができました。教会の中の孤立した弱い人々が、分裂時にもここに残り続け、この「細い糸」がこの教会を存続させたのです。また連盟・連合の支えもありました。(※3) そこに復活のイエス・キリストの導きがあったとわたしたちは信じます。

わたしたちは今改めて、南小倉バプテスト教会信仰告白を定めます。バプテスト教会の柱・土台として。イエス・キリストの福音信仰に生きる教会の責任と使命の表明として。これからの教会の歩みの指針として。イエス・キリストの赦しと導きのうちに。

※1 「躍進5ヶ年計画遂行のため昭和36年5月18日、シオン山、小倉、富野、三教会伝道協議会が発足し、木町地区に協力伝道所を置くことを決議し、同年9月、ハワード宣教師と信者5名により小倉区木町消防署二階公民館にて最初の集会が持たれた。昭和37年年次総会において土地購入が承認され、昭和38年4月堅林一丁目(現在地)に土地百坪を購入、コックス氏指定献金五千ドルにより会堂が建築された。」(以上南小倉バプテスト教会 日本バプテスト連盟加盟申請書 経過報告より)

「1955(昭和30)年海外伝道のため、沖縄へ宣教師を派遣したことは記憶すべきです。連盟はこの機会を逃さず『新生伝道』を実施し、…また1959(昭和34)年から教会倍加をめざす『躍進5ヶ年運動』を展開しました。」(1982年発行『信徒の手帳』より)

「1963年には全国にわたって『新生運動』が実施され、海外より六〇〇名におよぶ説教者、信徒が来日し、一大伝道活動を繰り広げました。」(「教会員手帳」33頁) 「われわれは昭和三八年に春に行われた新生運動(チーム伝道)に参加することを決め建物をそれまでに完成させたいと願っていたので問題をさらに複雑にした」(1967年バプテスト誌149号「教会訪問 恵にこたえて、福音のために前進する 南小倉教会」より)

これらの資料は南小倉バプテスト教会が、南部バプテスト連盟の強力な後押しを背景に進められた戦後の教勢拡大施策の中で生み出された教会であることをはっきりと示している。新しい信仰告白づくりは、こうした歴史の中で欠落していたものを改めて拾い集める、悔い改めの作業でもあった。

※2 当時の牧師 S.P. ハワード師は「信仰告白は昨年連盟加入の教会の信仰告白を参考にした。不備あれば研究し、必要なら変更も考えたい」と教会組織にあたって述べている。(1965年1月10日、教会組織会議資料より)

※3 1990年度～2002年度の13年間にわたって、計9,290,000円の連盟教会特別支援を受けた。

## 本文

わたしたちはイエス・キリストを信じる。

イエス・キリストは、すべての人の救いとなった。わたしたち人間はイエス・キリストに伴われ、すでに赦され、贖われている。この救いにおいて、わたしたちはすべての人とひとつにつながっている。わたしたちは、このイエス・キリストの救いを出発点とし、この救いに伴われ、この救いに向かって歩む。

イエス・キリストがその生と死と復活を通じてあらわした神は、わたしたちに伴い、わたしたちを徹底的に愛するインマヌエルの神。わたしたちはこの神を信じる。わたしたちは誰も、絶対に、孤独ではない。

イエス・キリストが指し示した神は、世界を創造し、わたしたちにいのちを与え、恵み、祝福してくださる神。わたしたちはこのかけがえのないいのちをただ受け、感謝し、大切に分かち合って生きる。わたしたちは神から与えられたいのちの尊厳を信じる。「生きるに値しないいのち」などない。

イエス・キリストは、ガリラヤで、罪や傷、貧しさを負わされた人々の味方となった。イエス・キリストは人々を祝福し、力づけ、解放した。イエス・キリスト自身も人々に力づけられた。イエス・キリストの言、癒し、食卓が、いと小さき者たちの只中にある神の国を示した。このイエス・キリストこそがわたしたちの救い。

十字架のイエス・キリストは「わが神、わが神、何ゆえわたしをお見捨てになったのか」と絶叫した。それはこの世界の罪、とが、不義、悪、災いの下で苦しめられたすべての者の叫びだった。イエス・キリストは絶望の底まで、わたしたちに伴われる。

わたしたちはイエス・キリストの十字架に、わたしたちひとりひとりの、そしてすべての人間の罪を見出す。人間として傷つけ、傷つきあいながら、わたしたちは生きている。イエス・キリストはわたしたちのこの罪を負った。十字架のイエス・キリストに、わたしたち全ては贖われた。

イエス・キリストは死んで葬られ、死者たちに伴い、その救い・希望となった。わたしたちは、イエス・キリストにおいて、死者たちとつながり、共に生きる。

イエス・キリストは復活した。そしてわたしたちに伴い、希望へと導き続けている。だからわたしたちは何度でも立ち上がることができる。復活のイエス・キリストは、わたしたちの希望。

復活のイエス・キリストはガリラヤへと先立った。そして傷ついた人びとと共にまた立ちあがり、歩んでいる。イエス・キリストはそこでわたしたちを待ってられる。わたしたちはイエス・キリストに期待されて歩む。

わたしたちは、イエス・キリストの身体として教会を形成する。わたしたちは福音に基づいて行動し、イエス・キリストを証しし、その希望をあらわす。わたしたちは、神の言を分かち合い、主の日の礼拝を守る。わたしたちは信じて歌い、祈る。わたしたちはイエス・キリストを想起し、主の晩餐を分かち合い、彼に連なって、開かれた食卓を囲む。わたしたちはイエス・キリストを信じて共に生きる生の証しとしてバプテスマを執り行う。

わたしたちはイエス・キリストの救いによって結び合わされ、希望の網を形成する。それは赦された者たち、伴われた傷たちのつながり。この網がわたしたち自身を、そして傷ついた者たちをつなぎ包み、希望へと捉える。わたしたちは隣人として歩む。わたしたちは愛する。平和を創り出す。ともに喜び、ともに泣く。いのちを大切にしよう社会を共に目指す。イエス・キリストによる希望のゆえに、絶望と闘う。わたしたちは恐れぬ。わたしたちは負けない。敗れても、破れても。イエス・キリストが共におられる。

聖霊に励まされて、わたしたちは信仰告白を生きる。聖霊はわたしたちが多様性をもって共に生きるよう促す。わたしたちは聖霊の風に吹かれ、変化を恐れず、対話する。

わたしたちは、聖書に聴く。聖書はその成立の過程で人間のさまざまな罪や悪、暴力や差別を負った。それでも、わたしたちは聖書に記された信仰と希望を巡る対話に耳を澄まし、神の言を聴き取る。わたしたちはこの世界の現実と具体的に関わりつつ、イエス・キリストの福音信仰に基づいて聖書と対話し、この対話から信仰をまた新たにする。

わたしたちはイエス・キリストに従う。国家も民族も、政治・経済も、いかなる権威も、その他なものも、わたしたちの主ではない。主イエスのみにわたしたちは従う。

イエス・キリストは再び来られる。罪もとがも、不義も悪も、絶望も、死も、悲しみも、終わりを迎える。神に創られたすべてのものが完全に贖われ、殺戮と破壊、搾取と差別が終わり、平和が訪れ、神の国が実現する日がやってくる。それはイエス・キリストと共にすでに始まった。そしてイエス・キリストと共に、訪れる。わたしたちはすでに始まっているこの希望の時を目指して生きつづける。

わたしたち南小倉バプテスト教会は、この信仰告白を分かち合い、ともに歩む。

2017年4月23日